

梓川公民館報

梓川地区運動会 2018

10月8日(月・祝)地区運動会が梓川小学校の校庭で開催され、全12種目の熱戦が繰り広げられました。

子どもたちの大冒険

ネットを一番早く潜り抜けても、ゴール手前に吊るされたお菓子を、なかなか口でくわえることができず、後から来た選手に追い抜かされ、悔しがる小学生の姿が印象的でした。



▲総合優勝の杏町会の皆さん



▲吊るされたお菓子里に苦戦する小学生

天国と地獄

走力だけではなく、運も必要になるこの種目は、じゃんけんに負けると倍の距離を走らなければならない、まさに「天国と地獄」。なかなかじゃんけんの勝敗がつかなかった上、負けてしまったときは、暖かい声援がかけられていました。



▲タルころがしに挑む参加者

タルころがし

速く走ろうと焦れば焦るほど、思い通りにタルが転がらず苦戦している人や、二本の棒を巧みに操りながら淡々と走っていく人など、最後まで勝敗がわからない、見ている人も楽しい種目になりました。

ラグゲーム

夫婦や親子などの男女ペアで参加するこの種目は、なかなか風船をわたることができず、焦ったり、照れたりしている様子が微笑ましく、周囲から歓声が上がっていました。

町会対抗リレー

毎年一番の盛り上がりを見せるのが町会対抗リレー。どの町会も応援に熱が入っていました。選手の皆さんも応援に応えようと必死に走っていました。

梓川の里山 金松寺山・天狗岩登山

10月28日(日)公民館講座「金松寺山・天狗岩登山」が行われ、地区内外から約30人の参加者が登山に挑みました。

当日は天候に恵まれ絶好の登山日和となりました。集合場所の大久保グラウンドにて準備体操で身体をほぐし、7時過ぎに出発しました。参加者はそれぞれのペースで進み、紅葉した木々を眺め、休憩を取りながら登りました。金松寺山から天狗岩へと続く尾根へ出たからの急傾斜の登りは険しく、立ち尽くしてしまふ参加者もいましたが、初対面同士でも励まし合いながら進み、約4時間後に、天狗岩の山頂に到着しました。



▲天狗岩山頂から松本平を望む参加者

目の前が急に開け、眼下に松本平が広がり、八ヶ岳、中央アルプスや南アルプスの峰々が一望できました。中でも遠くに富士山が見え感激しました。また、山頂近くの岩場には可憐な山野草が咲いており、参加者は、お昼を食べながら植物の名前や、遠くの山々の様子を賑やかに話していました。

親子三代で参加した方は、「途中苦しかったけど、小学校2年生の孫と一緒に山頂まで登れて良かった。」友人3人で参加された女性からは、「20年ぶりの金松寺・天狗岩登山で懐かしかった。登りは思いのほか辛かったが、頂上からの絶景が素晴らしかった。」などの感想がありました。天気に恵まれて、大きなケガもなく、身体は疲れましたが皆さん笑顔で帰路につきましました。

競技結果

優勝	杏 公民館
準優勝	南大妻 公民館
第3位	上 角 公民館
第4位	八景山 公民館
第5位	角影台 公民館
	北 条 公民館

「梓弓」を学ぶ

梓弓研究会は昨年7月に梓川アカデミア館にて発足しました。当初は当館職員の勉強会から始まり、現在は「梓弓に興味のある人」、「歴史が好きの人」、「難しいことはわからないけど学びたい」、「梓の木が気になる人」などが集まり、約25名が活動しています。来年度は、さらに会の活動も充実させる予定です。興味のある方は、梓川アカデミア館までお問い合わせください。

「梓弓研究会との出会い」

会員からの寄稿文

2年前、上高地に自生している梓の木があるのか、突然気になり、上高地山岳研究所へ問い合わせた。「大正池の近くに1本あったが、枯れてしまった」との回答。以来梓の木のことを気になっていたら、梓弓研究会の活動を知った。毎月第一水曜日に開催される



▶梓弓を見学する参加者

勉強会が楽しみになった。家族に研究会の成果を伝えると、いつも楽しんでくれるので、私の日々の元気の源にもなっている。安曇野市、旧高家村熊倉地区に住む私は、幼少より梓川の最下流と奈良井川が合流する河原でよく遊んだものだ。旧高家小学校校歌には「弓「梓川」と歌われていた。懐かしい記憶と今の梓の木への思いが私を突き動かす。地元熊倉春日大社は温暖化の影響により、松の宮の森は様変わりしてしまった。神社の森再生が重要な課題となっている。宮司を巻き込み、神社を囲む森作りを

梓の木と檀の木で行うことを決めた。すばらしいプロジェクトになりそうだ。同じ頃、梓弓研究会でも「梓の森プロジェクト」が始まっており、会員がアカデミア館の梓の種子を採取し、育苗計画を開始。今年の春発芽し、会員の期待を背負っている幼木は10月で20cmになった。今後は越冬と実生からの育苗技術の確立を目指し、頑張りを続けている。今後、この梓川地区を中心として、梓弓から放たれた矢が多方面に拡散し、さらに大きな梓川となつて後世まで流れが続くことを期待している。

知っていますか？ 梓川地区推奨の花・木・鳥

梓川地区推奨の花はコマチソウ、木はアズサ、鳥はセキレイです。それぞれ旧梓川村の村花・村木・村鳥であり、平成17年の松本市との合併後も継承されています。コマチソウは、ナデシコ科の一年草です。ムシトリナデシコという名称で呼ばれることもあり、茎周辺から粘液が出てベトベトしており、虫が止まると動けなくなることから、この名称がつけられたと言われています。寒さに強く、茎の先端に濃桃色の小さい花をつけます。アズサは梓弓の材料とされていたと言われており、ミズメとも呼ばれる、カバノキ科カバノキ属の落葉高木です。樹高は20mを超え、黄褐色の小さな花を多数つけます。セキレイはスズメ目セキレイ科の鳥であり、主に水辺に住み、長い尾を上下に振る習性があります。人や車を先導するように飛ぶこともよく見られます。



上大妻お祭りブテン

9月22日、23日は大妻神社のお祭りだ。上大妻若キ連は9月に入ると子供太鼓の練習や竹花造り等準備を始める。22日は宵祭り、青竹、提灯、灯笼で屋台を舟形に飾り夕方5時頃から町内引き回しが始まる。笛や太鼓が近づくと見物人も繰出し周辺の祭り気分は盛り上がる。やがて南大妻の屋台と合流、大妻神社に到着する。拜殿での浦安の舞が終わるといよいよクライマックス。2台の屋台が境内に入場し、拜殿前に並ぶ。その後鳥居までの約30mを駆け足で3往復、掛声高く威勢のいい屋台引き回しを奉納する。次の日は本祭り用の舞台を引く。この舞台は大きく重く彫刻も施された立派なものだ。ブテン引き回しは昔からのしきたりや祭囃子と共に後世に引継がれていく。



▲星月夜若き息吹と舟ブテン (ブテンは屋台・舞台の総称)

雑記帳



飲酒運転、高齢者の事故、あおり運転など毎日のように新聞やテレビで事故の映像や記事を見る。見るたびに「どうしてそんな運転をするのか」「怖い」と思うのは私だけではなく、多くの方が同じ思いだろう。しかし、危険な運転はテレビや新聞の中だけではなく、いつも身近にあるということも忘れてはならないし、私たちも実は危険な運転をしているのではないかと今一度見つめ直す必要がある。例えばスマホだ。私は大型トラックで輸送の仕事をしているため、高い位置から車内が良く見える。多くの方がスマホを見たり、操作したりしている。特に女性の運転手が多いと感じる。信号が変わってもスマホに夢中になり、クラクションを鳴らされて慌てて発進するのは、よく見る光景だ。時代なのか運転も「自分中心」に変わってきているようで、残念でならない。車は便利で生活には欠かせませんが、少し操作を間違えただけで、簡単に人を傷つける凶器にもなることを忘れずにハンドルを握ってほしい。